

股関節だより

第 31 号

平成28年 7 月

■発行日 平成28年 7 月10日



抗菌インプラントが発売されました

佐賀大学医学部整形外科 教授 馬渡 正明

いつも股関節便りを楽しみにされている皆様、お元気でしょうか？

この便りが創刊されてすでに16年が経過して、今回が第31号になります。当時はまだ1年間の手術件数が530件、そのうち股関節症例が200例でありましたが、昨年は手術件数が1539件、うち股関節症例は610例とそれぞれ3倍の増加でした。スタッフ数も当時と比べると増えてはいますが、3倍になっているわけではないので、一人あたりの仕事量はかなり増えていることになります。現在は股関節のみならず、膝関節、脊椎、肩、手、リウマチと整形外科全般にわたり手術が増え、また救急部に搬送される外傷も増加しているため、平日は毎日手術を行っています。国立大学で毎日手術している整形外科は佐賀大学以外にはなく、それだけ多くの患者さんに来てもらっていることになります。必然的に待機手術では待ち時間が長くなり、ご迷惑をおかけしていることを心苦しく思っています。できるだけ半年程度の待ち時間で手術ができるように努めていますが、現在私の手術は8～9か月待ちとなっています。以前より少し短くなりましたが、まだ長いですね。

さて以前より佐賀大学では人工関節置換術にみられるさまざまな合併症をゼロにすることを目標に研究を行ってきました。その合併症の一つにインプラント周囲感染症があります。その頻度は1～2%であり、さほど高くはありませんが、一旦発症すれば、難治性になりやすく、長期の治療を要することになります。洗浄で収まらなければインプラントを抜去し、感染症の鎮静化を待つ必要があります。再感染のリスクもあり、安易に再置換術をすることはでき

ません。他院で感染し、インプラントを抜去された状態で当院に来られる方もあります。

この感染症への対策は、予防がなによりも大切です。糖尿病、肝臓・腎臓疾患、悪性疾患（がん）、自己免疫疾患、など感染症に対する免疫が低下している患者さんの場合はことさら注意が必要ですし、事実そういった基礎疾患がない人に比べて、術後感染症の発生率が高いことが示されています。適正な抗生剤の使用、クリーンルームの使用、短時間での手術、十分な術中洗浄など、できることはすべて行います。それでもゼロにはならないのです。あとは設置するインプラント自体に抗菌性を持たせようとすることです。私たちは佐賀大学微生物学教室と京セラメディカル（株）との産学連携で10年間研究を重ね、この4月によりやく世界に先駆け、抗菌性人工股関節を製品化することができました。この抗菌インプラントは、骨へ固着されるとともに抗菌性を発揮し、細菌が増殖するのを防ぐことができます。このインプラントが全世界で使われるようになれば、このやっかいな術後合併症が減少することになると考えています。それを証明するには今後数万人のデータ蓄積が必要となるので、佐賀大学のみならず、他施設で評価してもらえるようにプロモーションしていく予定です。感染症はリスクの高い人のみならず、だれにでもおこりうるので、すべての人工股関節置換術を受ける患者さんに使いたいところですが、患者さんの大腿骨髓腔の形状によりこの大腿骨ステムが使いづらい場合があります。すべての患者さんに使うことは現時点ではできません。ステムのバリエーションを増やし、すべての人に使用できるよ

うに、開発を続けていきますので、少し時間が必要です。暫しお待ちください。骨盤側のカップは全症例に使えます。

また人工関節以外でも体のいたるところにインプラントが使用されます。整形外科領域では脊椎固定術にも多くのインプラントが使用されますが、やはり術後感染症が発生し、3%程度の発生率が報告されています。このインプラントも抗菌化すべきであると考え、現在開発に着手しています。他領域です

が抗菌性人工血管なども開発されていて、この流れは今後主流となると思っています。

術後合併症が減り、安心安全な手術ができるようになれば、患者さんはもちろん、医療者側にも大きなメリットになります。当然ながら限られた医療費の削減にもなります。私たちのこの取り組みが大きなインパクトになるように、世界に向けて発信していきたいと思っています。



世界初の抗菌性人工股関節AG-PROTEX。重篤な術後合併症である感染症の予防および治療に貢献する。2016年4月に日本で発売開始。佐賀大学と京セラメディカル株式会社との産学連携の成果。



人工股関節の対象年齢

佐賀大学整形外科 准教授 園畑素樹

皆様こんにちは。今回は、「人工股関節の対象年齢」についてお話しさせていただきます。

現在国内で年間約6万例の人工股関節が行われています。その多くは発育性股関節形成不全症による変形性股関節症と大腿骨頭壊死症の患者さんです。発育性股関節形成不全症は、ひと昔前まで「臼蓋形成不全」、「先天性股関節脱臼」と呼ばれていたものです。変形性股関節症であれば、人工股関節というわけではなく、なるべく自分の股関節を温存するための手術を先に検討します。発育性股関節形成不全症は臼蓋（股関節の屋根の部分）のかぶさがり不十分ですので、股関節の変形が生じる前や軽度の変形が生じた状態であれば寛骨臼移動術（図1）などの関節温存手術が行われます。大腿骨頭壊死症の場合も、壊死の範囲が限局している場合は大腿骨頭前方回転骨切り術（図2）や内反骨切り術（図3）などの関節温存手術が行われます。いずれの場合も、股関節の変形が進んだ場合には適応となりませんので、その場合は人工股関節が検討されます。

かつては、「70歳以下に人工股関節はしてはいけない」、「60歳までは人工股関節を待つべきだ」と言われていました。その理由は、早い時期に人工関節を行うと生命の寿命の前に人工関節の寿命が来てしまうから、というものでした。確かに、人工関節の入れ換えはできれば受けたくない手術です。そうすると、変形が進んだ若い患者さんはどうしたらよいのでしょうか。昔は、関節固定術（図4）が行われていました。固定術は、股関節の痛みを取るためには非常に効果的なのですが、膝や腰、反対側の股関節に負担がかかります。そのため、経過とともに、他の関節に障害が出てきてしまいます。

佐賀大学で、初回の人工股関節を受けられた患者さんの平均年齢は62歳です。もっとも多い年代は50歳代です。さて、皆さん人工股関節の適応となる年齢は何歳からだとお考えでしょうか。近年、人工股関節の改良・手術手技の工夫によって、人工股関節の寿命は延び、入れ換え手術も比較的体に優しくできるようになって来ました。その結果、人工股関節の対象年齢は徐々に広がってきています。海外では10歳代の患者さんに対して行われた人工股関節の報告もあります。若い患者さんの股関節疾患に対しては関節温存手術が第一選択ですが、どうしても温存手術ができない場合は佐賀大学でも人工関節の適応としています。若い時期に痛みに苦しみ、生活を制限されるのはQOL（生活の質）が著しく障害されます。ですので、入れ換え手術を覚悟して若い方にも行っています。ただし、その後の定期的な受診は必須です。将来入れ換え手術をするにしても、そのタイミングが大切だからです。完全に壊れてからの入れ換えは、非常に大変です。

佐賀大学で行われた初回人工股関節の最年少は17歳（複数名いらっしゃいます）、最高齢は98歳です（図5）。

人工股関節の性能は年々向上しています。しかし、決して半永久的に問題が無いわけではありません。繰り返しになりますが、若い人に限らず、定期的な受診をお忘れのないようにお願いします。では、失礼します。

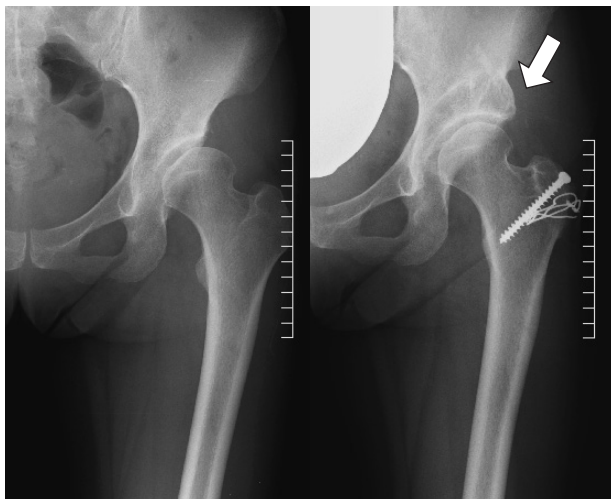


図1 臼蓋の回転骨切り術(寛骨臼移動術)。(左)手術前。(右)手術後。股関節の屋根の部分が大きくなっています(矢印)。

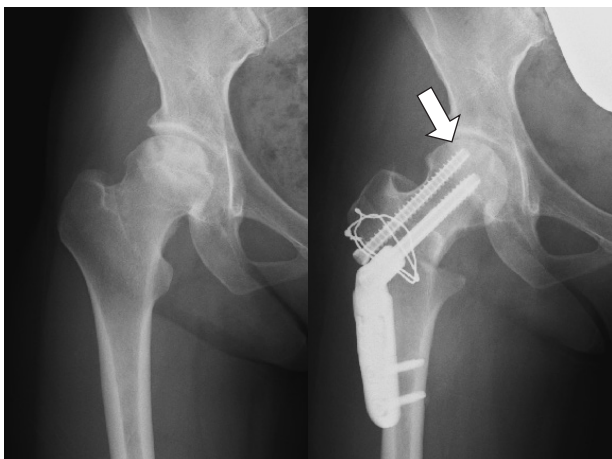


図2 大腿骨頭前方回転骨切り術。(左)手術前。(右)手術後。大腿骨頭の傷んでいない部分が関節の部分に移動しています(矢印)。

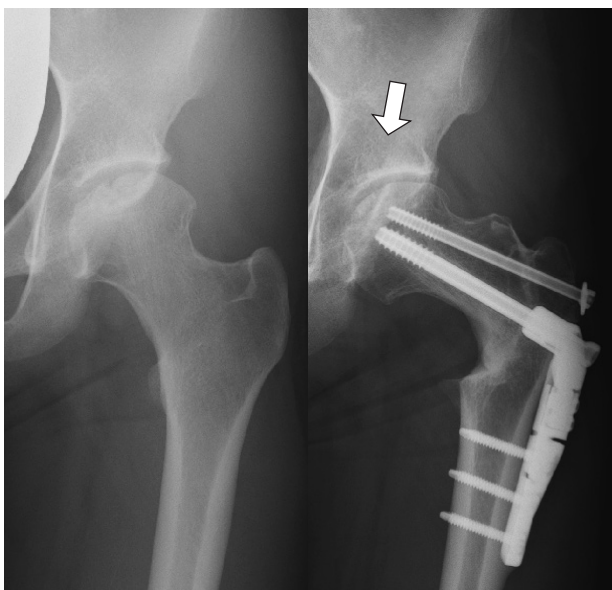


図3 内反骨切り術。(左)手術前。(右)手術後。大腿骨頭の傷んでいない部分が関節の部分に移動しています(矢印)。

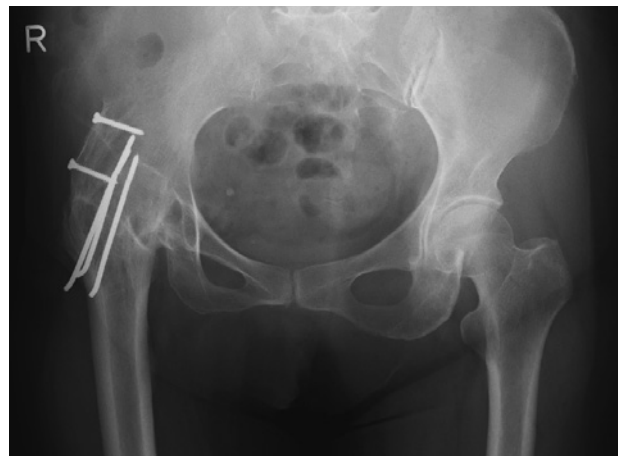


図4 股関節の固定術後

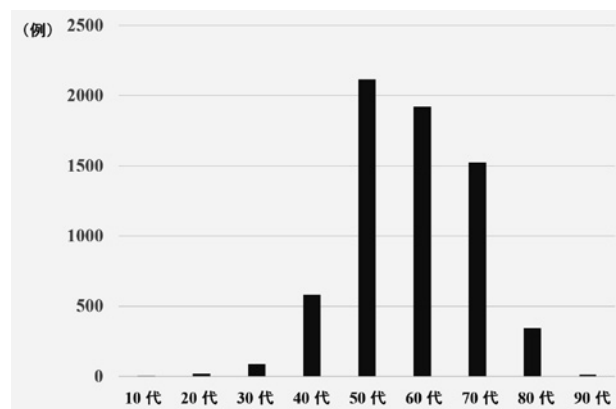
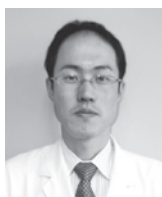


図5 佐賀大学で初回人工股関節を受けた患者さんの年代



寝るときはベッドですか？

佐賀大学医学部整形外科 講師 北島 将

1) ベッド派？布団派？

今回も外来で皆さんに聞いてきました。人工股関節を受けられた患者さんは洋式の生活を勧められます。和式の生活はしゃがむ動作が多いため、脱臼するリスクが高いとされているからです。トイレも和式よりは洋式、寝る時も布団よりベッドを勧められます。

では、人工股関節を受けられた方は皆さんベッドでの生活でしょうか。

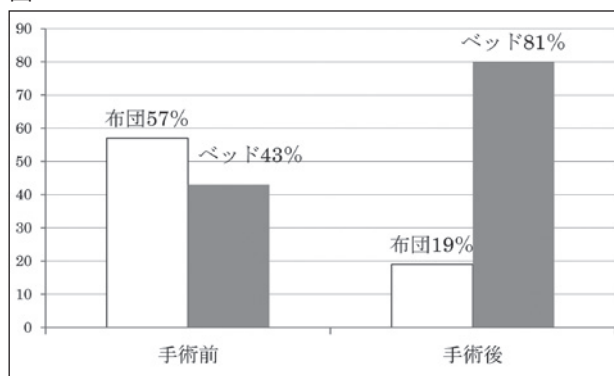
まずは術前の調査です。布団が57%（135人中77人）、ベッドが43%（135人中58人）で、布団がやや多いようです。全日本ベッド工業会の平成17年度調査では、ベッドの普及率は60%です。それよりやや低い値でした。これは若い人も含む値（子供さんも含んでいます。）によるものと思いますので、50歳以上だと一般的には布団とベッドは半々といったところのようです。

術後は、50人の方がベッドに変更していただいたので、布団が19%（135人中26人）、ベッドが81%（135人中108人）と、圧倒的にベッド派は増えました。人工股関節をしたあとはベッド生活が増えるようです。お1人は手術後ベッドから布団に変えたと言われていました。お1人はソファで寝ているとか・・・。ベッド派になるのでしょうか。

中には、手術前に股関節が痛くなってきたからベッドに替えたという人もいました。股関節にはベッドが優しいかも知れませんが、皆さんは気付かれたでしょうか。実は2割の方は布団の生活をされているようです。人工股関節をしても和式の生活が可能な方もいます。手術をしてから3か月は脱臼するリスクが高いとされますので、その時期

を過ぎてから少しずつ試してみるのもいいかもしれません。（図1）

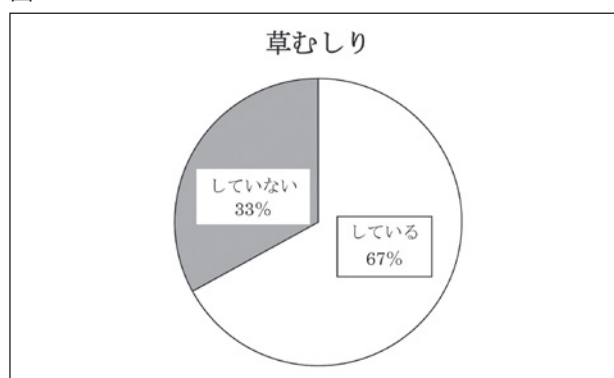
図1



2) 草むしりはしているの？

春先を過ぎると庭に草が生えてきます。生命の力を感じるところですが、自分の家の庭だとそういうわけにはいきません。戦いです。人工股関節後に草むしりをしている人は、67%（132人中88人）でした。ダンボールを敷いて膝をついてしたり、座イスを使用したり、腰を曲げてやったり、さまざまな形でされているようです。一般的に草むしりをしている人がどれくらいかは分かりませんが、約70%の人がされていますので、人工股関節後も普通にされているようです。ただし、少ししているという人が多く、草むしりの量を減らしたり、中には家族から止められているなど、制限はされている印象でした。（図2）

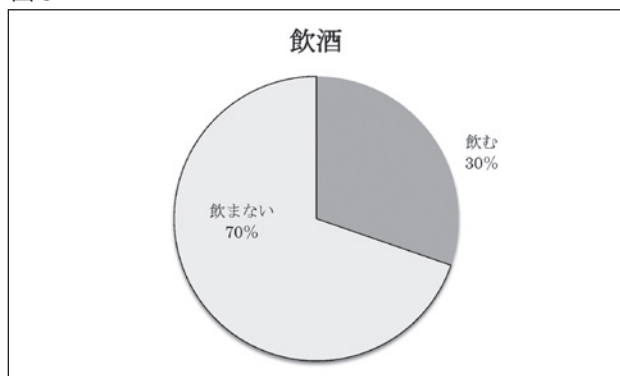
図2



3) お酒は飲んでいますか？

これは人工股関節と関係がありませんが聞いてみました。30%（132人中40人）の方がお酒をたしなんでおられるようです。厚生労働省が出している平成17年国民健康・栄養調査では、50歳以上の方は24%が飲酒習慣があるそうです。（週3日以上で、清酒に換算し1日1合以上飲酒するものを飲酒習慣者としているとあります。）今回の調査はお酒を少しでも飲んでいるかどうかを聞いていますので、厚生労働省がだしている飲酒習慣者となるともう少し低くなるかと思います。人工股関節とお酒はやはり関係ないようです。（図3）

図3



4) 腰は痛くないですか？

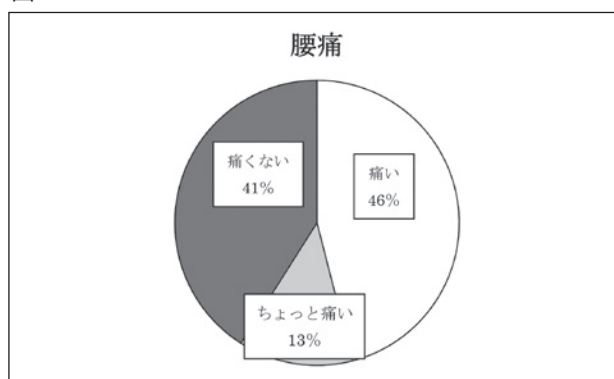
手術後に腰が痛いと言っていた人は、59%（100人中59人）でした。その中でちょっと痛いと言っていた人は13%（100人中13人）でした。46%の人はなんらかの形で痛いと言えがります。時々痛い、仕事をした後、草むしりをした後、掃除機をするとき、長時間車に乗っていると、じっと座っているときなどなど。腰の手術を受けた方もおられました。

腰痛は年齢により訴えが違いそうです。今回の100人の調査でも、50歳代は58%、60歳代は42%、70歳代は63%、80歳代は76%と、80歳を越えると8割近くの方は腰が痛いと言われています。痛いかちょっと痛いかで分けて聞いてみると、痛いと言っている人はあまり年齢で変わりません

でしたが、ちょっと痛いという人が高齢になると増えていることが分かりました。

腰痛調査（2003年 腰痛に関する全国調査）では、治療を必要とするほどの腰痛経験がある人は、50歳代は59%、60歳代は50%、70歳代は59%と報告されています。今回の調査でもほぼ同じ割合でした。60歳代が少し減り、70歳を越えると少し増えるようです。（図4）

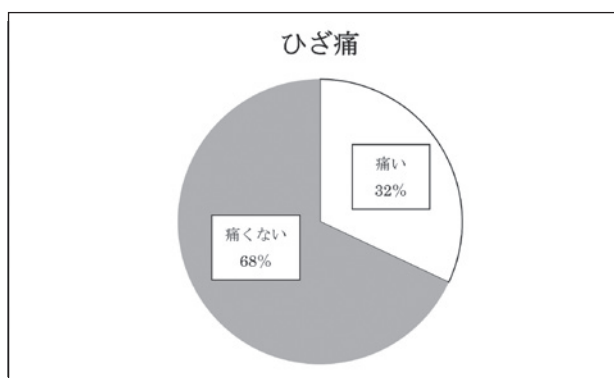
図4



5) ひざは痛くないですか？

手術後にひざが痛いと言っていた人は、32%でした。腰と比べると約半分くらいに減りました。50歳代は32%、60歳代は22%、70歳代は30%、80歳代は47%と、年齢が高くなるとひざが痛いという人も増えていることが分かります。ひざも80歳を越えると半数の方が痛いと言われるようになり、痛みが出る方が増えるようです。（図5）

図5



新任の挨拶



佐賀大学医学部整形外科 助教 松村 陽介

みなさん、こんにちは。平成28年4月より5年ぶりに佐賀大学で勤務しております松村陽介と申します。今年で、医師13年目を迎えました。これまでの勤務先は、

- 1年目 NHO佐賀病院（卒後臨床研修）
- 2年目 佐賀大学附属病院（卒後臨床研修）
- 3年目 佐賀県立病院 好生館
- 4年目 太良町立病院
- 5年目 NHO嬉野医療センター
- 6、7年目 佐賀大学附属病院
- 8年目 我汝会 えにわ病院
- 9、10年目 多久市立病院
- 11、12年目 NHO東佐賀病院

というふうに、様々な病院で働かせていただき、貴重な経験をさせて頂きました。今後の診療に生かしていきたいと考えております。

自分は、長崎県対馬市出身です。離島です。長崎

南高校を卒業後、佐賀医科大学（現佐賀大学医学部）に入学しました。佐賀に住んで20年近くなりますが、未だに少なまっているよねと言われます。しかし、対馬に帰省した時や長崎で同窓会に出席した時には、佐賀弁になったと言われてしまい、もう自分自身どこの方言を話しているのかわからなくなっていました。

専門分野は、膝関節外科を志しており、膝関節班チーフである井手先生のもと多くのことを学んでいきたいと思っています。まだまだ未熟ですが、知識をつけ技術を磨き少しでも患者様の助けとなれるように努力していきたいと思います。また、外来や病棟などでお会いすることもあるかと思いますが、その際は気軽に声をおかけください。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



佐賀大学医学部整形外科 助教 泉 政寛

みなさまこんにちは。

平成28年4月より佐賀大学で勤務させていただいております泉政寛と申します。佐賀大学で勤務していたのは平成22年の1年間だけでしたので6年ぶりの大学勤務となります。6年前と比べると、病棟も新しくなりコンビニ、ドトールもでき環境は変わりましたが、患者さんが病棟の廊下でリハビリを頑張りが、笑顔で退院していく姿は変わっていませんでした。懐かしさを感じたとともに、患者さんに佐賀大学で治療を受けてよかったといってもらえるような医療を行っていかないといけないと感じております。

大学病院を離れていた期間には佐賀県立病院好生館、長崎医療センター、唐津済生会病院で勤務しており、昨年1年間は北海道のえにわ病院で肩関節疾患を中心に勉強させていただきました。

専門は外傷、肩関節疾患で週に1回肩関節、整形外科一般外来を担当しております。肩の痛みは腰椎、膝について3番目に多いといわれております。肩が痛いと感じられている方は外来にいらっしゃっていただければと思います。また、月曜日、金曜日の股関節外来の陪席に出ることがありますので、その時にでもお声かけいただければと思います。

よろしくお願いいたします。



医員 村中 一喜

こんにちは。初めまして。このたび4月より佐賀大学医学部附属病院整形外科での勤務となりました、村中一喜（むらなかかずき）と申します。

恐縮ながらも自己紹介をさせていただきます。

山口県下関市出身、地元の小中学校、地元の公立高校を卒業し根っからの下関人です。縁あって佐賀大学医学部に入学し6年間勉強させていただき、2年間研修生活を送る中で、住めば都と佐賀に対する愛着をもちました。そして、学童時代から憧れてい

た整形外科医になるため、佐賀大学医学部整形外科教室の門をたたいた次第でございます。

新入局の昨年度は福岡記念病院で1年間勤務させていただきました。術後笑顔で退院される患者様を見て、整形外科を選択してよかったと思っております。

まだまだ未熟者ではありますが、診る姿勢、考える姿勢、学ぶ姿勢を継続し精進して参りたいと思いますので、よろしくお願いします。



医員 末次 宏晃

初めまして。

本年度から佐賀大学医学部附属病院 整形外科で勤務している末次宏晃（すえつぎひろあき）と申します。平成25年3月に佐賀大学医学部を卒業。初期研修は同じく佐賀大学附属病院にて2年間勤務した後、整形外科に入局しました。

整形外科医としての初年度は、昨年佐賀中部病院（旧 佐賀社会保険病院）にて勤務しておりました。主に外傷・一般整形外科領域を学び、本年4月から佐賀大学附属病院で勤務となっております。

佐賀で生まれ育ち、この佐賀という土地で少しでも貢献できるように地域に密着した医療を目指し

て、働く日々であります。患者様には自分の家族のように真摯に向き合って、優しく時には厳しく接していけるように心がけていきたいと思っております。

趣味はスポーツ（テニス・野球・ゴルフ・etc.）です。なかなか思うように身体が動きませんが、定期的に身体を動かして心身ともに健康でありたいと思っております。

これから皆様に頼られるような整形外科医を目指して精進していきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



医員 松浦 恵里子

股関節だよりをご覧の皆さま、はじめまして。平成28年4月より佐賀大学病院で勤務させていただいております、松浦恵里子と申します。この場をお借

りして、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は福岡県北九州市の出身で、平成25年に佐賀大学医学部を卒業し佐賀大学病院で2年間の臨床研修を終

えました。平成27年に佐賀大学医学部附属病院整形外科に入局し、平成27年度の1年間は多久市立病院で勤務させていただきました。大学病院では、人工関節の手術や上肢の手術、脊椎疾患の手術など専門的な治療を受けられる患者様が多く、毎日勉強の日々です。

至らないところだらけではございますが、患者様・ご家族様に安心して治療を受けていただけるよう精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



医員 北島 雄人

初めまして、北島雄人と申します。平成26年に佐賀大学医学部医学科を卒業し、佐賀大学医学部附属病院、佐賀中部病院での研修を経て今年度より佐賀大学医学部附属病院整形外科に入局しました。

出身は佐賀県佐賀市で、生まれてこのかた佐賀市以外に住んだことがありません（ただ、佐賀については全然詳しくありません…）。趣味は映画鑑賞、ドライブ、温泉巡りです。

まだ整形外科になりたてであり、知識も経験も足りませんが、より多くのことを学んでいけるように日々たくさんの方の知識を吸収していきたいと思っています。不慣れな点や至らない点も多くあるとは思いますが、一つ一つの症例を大事にこれから頑張っていきたいと思っていますので皆様よろしくお願い致します。



大学院 古畑 友基

初めまして、平成28年4月より整形外科大学院に入学しました古畑友基と申します。

股関節だよりも文章が載るのは初めてですので簡単に自己紹介をさせていただきたいと思います。私の出身地は佐賀です。生まれも育ちも佐賀、進学した大学も佐賀、という根っからの佐賀県民でございます。佐賀大学医学部を卒業後、2年間の研修医期間を経て佐賀大学整形外科に入局し、佐賀大学医学部附属病院、嬉野医療センター、福岡記念病院、柳川病院で勤務して参りました。医師になって7年目ということになります。ちなみに苗字は“ふるはた”ではなく“こばたけ”と少し珍しい読み方をしますが、特別佐賀に多い苗字というわけではござい

ません。

現在、整形外科の大学院では、抗菌性を有する人工関節の開発に関する研究と、整形外科疾患における動作解析（歩行解析）に関する研究を行っております。先日、京セラの銀含有抗菌インプラントが発表され、ニュースでも話題になっておりましたが、歴代の先輩方が築き上げた研究の成果が礎になっていると考えると、誇りに思うと同時に身が引き締まります。一つ一つの実験・研究の積み重ねが、今後の医療の発展に寄与し、多くの患者様にその成果が還元されるのだと信じ、励んでいく所存です。

今後ともよろしくお願い致します。

医局 野中 寿栄

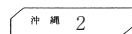
平成26年股関節だより送付状況は、全体で5774部（九州（佐賀県除く）2581、九州・佐賀県以外は539、佐賀県2654）でしたが、平成27年送付状況は、全体で6087部（九州（佐賀県除く）2751、九州・佐賀県以外は536、佐賀県2800）になっております。全体的に313名増加となっております。

今後とも股関節だよりをよろしくお願いします。

	平成25年	平成26年	平成27年
佐賀市	830	887	958
唐津市	281	295	301
鳥栖市	70	73	81
多久市	77	80	89
伊万里市	174	186	195
武雄市	137	141	141
鹿島市	137	147	151
小城市	167	182	192
嬉野市	65	66	67
神埼市	92	133	142
神埼郡	29	40	45
三養基郡	66	78	83
東松浦郡	8	8	8
西松浦郡	52	55	56
杵島郡	235	239	247
藤津郡	42	44	44
合計	2462	2654	2800

	平成25年	平成26年	平成27年
九州(佐賀県除く)	2411	2581	2751
佐 賀 県	2462	2654	2800
九州、佐賀県以外	520	539	536
合 計	5393	5774	6087

北海道
2



お便り・お手紙 ありがとうございます

馬渡孝生

この度は娘の手術を執刀下さり、
まして、ありがとうございました。
先生の御高名は伺えておりまし
たが、娘の手術はほんとに
みごとに成功して下さり、心から
感謝しております。
親として、じつとひき、痛み
じめとのみながら、働いている
姿は、長年、耐えられないうの
りだ。
金曜日に娘を必ず帰してみま
す。申すまでエペクター前まで

迎えてくれました。その顔は、
すーっと昔の高校生の時のように
若々しく、明るく笑顔で、私の心が
とまどいてしまいました。
心から感謝申し上げます。
私も、娘達も仕事もしています
ので、お慶び、友人達がたまた
ま後を送る下さり、娘が予
を見守っていて下さいます。
この手術の成功で、娘はもとより
私たち家族のしあわせもよめ
いくと思います。
直接お会いしたい、おれを申し
上げたいと思いましたが、日々

おかげで先生も何と、遠慮し
て牛乳をさしてあげました。
先生も御自愛なさって下さい。
いつかお会いする事ができれば、
幸せな存じます。

五月三十日

佐賀県佐賀市	H・S	様
佐賀県佐賀市	N・Y	様
佐賀県佐賀市	I・S	様
佐賀県神埼市	S・H	様
福岡県大牟田市	K・T	様
福岡県大牟田市	T・R	様
福岡県大牟田市	M・H	様
福岡県筑紫野市	K・K	様
長崎県	T・Y	様
宮崎県延岡市	Y・S	様
東京都	K・M	様
愛知県	H・T	様
香川県	M・Y	様
高知県	A・M	様
神奈川県	N・K	様

今後ともよろしくおねがいします。

編集後記

4月に熊本と大分で震度6～7の地震があり、佐賀でも震度5強の地震が起こりました。九州でこれほど大きい地震が今まで来たことがありませんでしたし、本震が夜中に来たので、しばらくは寝られませんでした。

股関節手術をされた患者様には熊本県や大分県から多く来られていますので心配しておりましたが、無事であることの連絡があり少し安心しました。余震もすこし落ち着いてきているみたいです。大きな地震がこれ以上起こらないように願うばかりです。

股関節だよりも今年で16年になります。創刊号時は、年に3、4回送付してましたがなかなか股関節だよりを編集することができず、現在では年に1回しかお送りすることができなくなり本当に申し訳なくおもっております。ただ回数が減った分、内容の濃い股関節だよりをお届けするように心がけていこうと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

さて、4月から新任の先生が7名になり新体制になりました。みなさん優しい先生たちばかりですので、外来でお目にかかれたときにはお声かけいただければと思っております。

いつもたくさんのお手紙・お便りありがとうございます。皆さんのお便りが股関節だよりを構成するとき、とても励みになっております。心からお礼申し上げます。

5月に入り暑い日が続いておりますので、体調を崩されませんようお体ご自愛ください。

お手紙・住所変更等の連絡先 〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5丁目1番1号
佐賀大学医学部整形外科医局内 股関節だより編集局 野中まで
Tel：0952-34-2337 Fax：0952-34-2059
Mail address：sagaseikei@gmail.com
追伸：住所変更がある場合は、ご連絡をお願いいたします。
外来の予約・変更の場合は整形外科直通の電話番号でお願いします。